

すべてのいのちを守るための月間 2022.9.1-10.4

9.11 — 9.17



キャンペーンの羅針盤である 回勅『ラウダート・シ』『兄弟の皆さん』とともに この月間をすごして いきましょう

TOGETHER WE

ともに 「すべてのいのちを守るための月間」を よりよく過ごすために

9/11
(日)



わたしたちは、後続する世代の人々に、今成長しつつある子どもたちに、どのような世界を残そうとするのでしょうか。どのような世界を後世に残したいかと自問するとき、わたしたちはまず、その世界がどちらに向かい、どのような意味を帯び、どんな価値があるものなのかを考えます。

しかし、こうした問題と勇敢に向き合うならば、他の重大な問いを避けて通ることはできません。それは、この世界でわたしたちは何のために生きるのか、わたしたちはなぜここにいるのか、わたしたちの働きとあらゆる取り組みの目標はいかなるものか、わたしたちは地球から何を望まれているのか、といった問いです。

ですから、もはや、将来世代のことを考慮すべきだと言明するだけでは足りません。わたしたち自身の尊厳こそが危機にさらされていると理解する必要があります。

9/12 (月)

わたしたちはまず家庭の中で、いのちに対する愛と敬意の示し方を学び、また、物を適切に利用すること、整頓することと清潔にすること、地域の生態系を尊重すること、すべての被造物を気遣うことを教わります。

無理強いせずに頼むこと、受けたことに対する心からの感謝の表現として「ありがとう」ということ、攻撃や強欲を慎むこと、傷つけてしまったらゆるしを請うことを学びます。

心のこもった礼節を表すこうしたささやかな言動は、ともに暮らす文化を創出し、周辺環境を尊重することを助けてくれます。

LS § 213



9/13 (火)

社会平和は、骨の折れる手仕事です。

重要なのは、出会いのプロセスを、違いを受け入れることのできる民を築くためのプロセスを生み出していくことです。子どもたちには、対話という武器を装備させましょう。出会いという優れた格闘を教えましょう。 FT § 217



9/14 (水)

今もわたしたちは、永遠の安息日、新しいエルサレムに向かって、皆がともに暮らす天の家に向かって、旅を続けています。イエスは、「わたしは万物を新しくする」（黙示録21・5）といわれます。永遠のいのちとは、輝くばかりに変容させられた被造物それぞれが、おのおのにふさわしい場を与えられ、全面的に解放された貧しい人々に与えるべき何かを有している、そのような畏敬をともに味わう体験であることでしょう。

LS § 243



9/15

(木)

優しさとは何でしょうか。そばに行き、具体的に示される、愛のことです。心から始まって、目に、耳に、手に届けられる動きです。・・・優しさは、もっとも勇敢で強い人々がたどった道なのです。

優しさは、人間関係に生まれがちな残酷さから、他人のことなど考えられなくなるほどの不安から、相手にも幸せになる権利があることを考えられなくなるほどに注意が散漫した状態から、解放してくれます。

FT § 194 ・ § 224



9/16

(金)



希望は、「生きている具体的な状況や歴史的な条件に関係なく、人間が深く根ざしている現実を語ります。渇きを、願望を、満たされることへの切望を、なし遂げた人生を大いなるものに触れたいという思いを語ります。希望は大胆であり、個人的な快適さを、視野を狭めてしまう小さな安全や補償を、超えるものです。それは、人生をより美しく、尊厳あるものとする、大きな理想に開かれるためのものなのです」。希望のうちに歩みましょう。

FT \$ 55

9/17
(土)

近づくこと、伝えること、耳を傾けること、目を向けること、互いを知ること、互いに理解しようとする、接点を探すことー、このどれもが、動詞「対話する」に集約されます。会って、助け合うには、対話が必要です。

FT § 198